



子どものウェルビーイングとは

8月末に今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。大阪市では、学校ごとに結果を公表することが義務付けられていますので、本校でも、今月末までにホームページに掲載する予定です。

全国学力・学習状況調査は、2007年（平成19年）に文部科学省によって、全国的に子どもたちの学力状況を把握するために、小学校では6年生を対象として始められました。最初は国語科と算数科だけでしたが、2012年に理科が、2019年（令和元年）には英語が加わりました。（共に3年に1度の割合で実施）また、当初は「知識」を問うA問題と「活用」を問うB問題に分かれていましたが、2019年からは、それらを一体として問題を扱うようになりました。

全国学力・学習状況調査といえば、毎年結果が出る度に、都道府県の順位や正答率の全国平均との差が大きく取り沙汰されています。もちろん教科自体の正答率も大事ですが、学校で教える我々が気にしているところは、問題に対して子どもたちがどのように答えたかという部分です。例えば、この問題は正答率が高いが、この問題は低いとなると、どういった部分に対して、子どもの理解が不十分かということがわかります。そうした結果から指導の改善へと結びつけていきます。それらは、普段学校で行うテストでもある程度わかるのですが、この調査は全国の結果と比較することができるので、傾向がより顕著にわかります。ただやって終わりではなく、子どもも先生も、そこから何を学ぶのかが大事なのです。

そして、この調査のもう一つ大きな特徴に、質問紙による学習状況調査があります。学習に対する取り組み方だけでなく、睡眠や食事のとり方などの生活習慣も含めて、60以上の質問があります。この質問調査結果と学力調査の結果を関連づけたクロス分析をすることで、例えば読書習慣やスク린タイムと学力との関係などがわかつてきます。



先日、こうした質問紙調査の結果を使って、大阪市総合教育センターの調査分析グループが、子どもの「主観的幸福感」に影響を与えていたものについての分析結果を報告しました。主観的幸福感とは、簡単に言うと「自分の人生に満足している状態や気持ち」のことです。最近では、よく「ウェルビーイング」という言葉で言われているのを聞いた方も多いのではないでしょうか。

分析の手法は難しいので説明を省きますが、その結果、子どもの主観的幸福感に大きな影響を与えるのは、「友だち関係」「先生のサポート」「自己肯定感」の3つだということが分かったそ

うです。要するに、自分の周りに仲の良い友だちがいて、そばには頼りになる先生がいて、いろんなことができるようになって、みんなから認められたり必要とされたりすると、学校が楽しいものになるということです。当たり前と言っては身も蓋もないですが、当たり前の話ですよね。でも、その当たり前をすべての子どもが感じられないというのも現実です。

私は、これまで担任していた子どもたちに「学校は、わからないことがわかる場所、できなかつたことができるようになる場所、そして、友だちを作る場所です。」と言ってきましたが、この分析結果を見て、学校の果たす役割は今も昔も変わらないのだと、あらためて思いました。また同様

に、先生の寄り添う姿勢が、子ども自身の頑張ろうという気持ちを支えていることも、昔と変わりありません。



今日から10月です。今年度の残り半分も子どもたちのウェルビーイングとは何かを考えながら、教職員と共に教育活動を続けていきたいと思っています。

オープンスクールやってみます

先日お手紙でお知らせしましたが、10月18日（金）にオープンスクールを開催します。その名の通り、学校が一日中開いています。ただそれだけです。

当日は、子どもたちは、普通にいつも通りの学校生活を送っていますので、保護者に見ていただくための特別な授業や行事は行いません。先生方にも、参観日のような特別な授業はせず、普段通りの学習をして、いつもと同じ一日を送ってくださいと伝えています。

開かれた学校を目指して、毎日、学校のホームページでも学習の様子をお伝えしていますが、短い文と写真3枚だけでは、伝える事にも限界があります。また、仕立てた学習参観も楽しくて良いのですが、どうしてもイベント的になって、子どもたちの様子がいつもとちょっと違う感じがします。ですから、今回は、お子さんの普段の学校生活を見ていただこうと思った次第です。^{しだい}

とは言え、せっかく来ていただいたのに、「たまたま算数のテストの時間で、1時間黙って問題を解いている姿を見ているだけでした。」では申し訳ないので、当日の学習予定は、学級担任からあらかじめお伝えします。時程をご覧いただき、ご都合に合わせてお好きな時間にお越しください。また、当日は教室内にも自由にお入りいただけます。でも、もし、お子さんの普段の姿をご覧になりたければ、気づかれないように廊下からこっそり覗^{のぞ}いていただくのもよいかもしれませんね。

子どもたちにしてみれば、ドキドキして落ち着かない一日になってしまふかもしれません、そんな中でもいつもと変わらず学校を楽しんでほしいと思います。

